

国語科（書写）学習指導案

第4学年 11名
指導者 逸 見 美千代

1 単元 漢字とかなの大きさ ～「十才の決意」を書こう～

2 単元について

(1) 単元設定の理由

新学習指導要領では、第3学年及び第4学年の2内容[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項](2)「イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。」とある。

これまでに「画の長さと間かく」「画の方向」「筆順と字形」「上下・左右の組み立て方」などの学習をしてきた。また1学期の「新聞を作ろう」では、「字形の整え方」や「行の中心」について学習したが、文字の大きさや行の中心についての意識は低い。そこで毎年11月に行うオープンスクールで、保護者や地域の人たちに囲まれながら「2分の1成人式」をして、十才の決意を発表することに意欲を向けさせたい。十才の決意を文字に表す活動を通して、具体的に漢字と仮名の大きさや行の中心について学習し、子ども一人一人にとって意味の深い決意となることをねらい、本単元を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、真面目に学習に取り組み、丁寧に文字を書こうとする意欲をもった児童が多い。1学期に行った意識調査でも、ほとんどの児童が文字を上手に書きたいという願いをもっていることが分かった。また、書写の学習が好きであると答えた児童も多くいた。基本の点画名やその筆使いについての知識・理解もよくできている。

また王地タイムでは、多様な筆記用具を用いて、自分の名前や手紙・七夕の願いなどを書いたり、書き初め用紙に新年のちかいを書いたりして、書字活動を楽しんでいる。日常生活においても日記やノート指導をしてきているが、まだまだ漢字と仮名の大きさ・行の中心などを整えて書いている子は少ない。

(3) 指導にあたって ～文字の大切さを認識させ、書く意欲を高める学習活動の工夫～

本単元は、学級活動の時間と関連を図って、文字の大切さを認識させ、書く意欲を高める学習である。オープンスクールでは「2分の1成人式」を行い、十才の決意を発表する。心を込めて十才の決意を書き、発表することで、文字を大切にしたい気持ちや整えて書こうとする意欲が高まると考えられる。手書きの文字には書き手の気持ちやその人自身が表れる。そのために、書き手である自分の思いが込められていることや、文字の大きさや行の中心に注意して書くことで、相手に強く思いが伝わることを学ばせ、児童の書く意欲を高めたい。そこで、用紙に合う太さの筆を用意し、行の中心がわかるように練習用紙を半分に折らせたり、長くつないだ水書用紙や練習用紙、水書板などを活用させたりして、いろいろな練習の場を設定する。児童自ら練習方法を選択して練習することで、漢字と仮名の大きさや行の中心について理解させ、書く意欲をもって学習に取り組むことができるようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 自分のめあてをもち、自分のよさや友達のよさを認め合って、意欲をもって文字を書くことができるようにする。
- (2) 漢字や仮名の大きさや行の中心に気を付けて、書くことができるようにする。

4 単元の評価規準

ア	関心・意欲・態度	① 自分のめあてをもち、楽しく学習を進めようとしている。 ② 自分や友達と学び合いながら、互いのよさを見付け、認め合おうとしている。
イ	言語についての知識・理解・技能	① 漢字や仮名の大きさや行の中心に気を付けて、書くことができる。

5 単元の指導計画

第1次 漢字とかなの大きさ ～「十才の決意」を書こう～（書写）・・・1時間（本時）

関連指導

事前 「2分の1成人式」に向けて（学級活動）・・・1時間
事後 「2分の1成人式」をしよう（学級活動）・・・1時間

6 本時の学習

(1) 目標

- 自分のめあてをもち、自分のよさや友達のよさを認め合って、意欲をもって文字を書くことができるようにする。
- 漢字や仮名の大きさや行の中心に気を付けて、書くことができるようにする。

(2) 展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	具体的評価規準 (評価方法)
つかむ	1 「2分の1成人式」に向けて自分の決意を話し合い、本時のめあてをつかむ。 ・教師の例をもとに、書き方のポイントをつかむ。 ・試し書きを見て、自分のめあてをつかむ。	・十才の決意を発表させ、思いを語らせる。 ・文字の大きさの不揃いな例や中心が整っていない例を見せて、めあてがつかみやすいようにする。	ア①（発言・観察）
漢字とかなの大きさや行の中心に気を付けて書こう。 ・行の中心と文字の中心 ・漢字とかなの大きさ			
高める	2 練習方法を選択し、練習する。	・自分のめあてに応じた練習ができるように支援する。 練習用紙 水書板 水書用紙	イ①（観察） イ①（まとめ書き）
確かめる	3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・試し書きと比べて、よくなったところにシールを貼る。	・めあてを確認させ、心を込めて書くよう助言をする。 ・机間指導をしながら、用紙の使い方に配慮し、個別に支援する。 ・めあてに沿った評価ができるように働きかける。	
生かす	4 友達の書いたまとめ書きを見てよいところを見付け合い、次時の学習を確認する。	・相互評価をすることにより、充実感や喜びを味わわせ「2分の1成人式」の意識付けをする。	ア②（発言）

(3) 評価および指導

①「十分満足できる」と判断される状況

ア①	自分のめあてをもち、意欲的に書こうとしている。
ア②	積極的に友達のよいところを見付け、学び合い活動をしようとしている。
イ①	適切な大きさの文字や行の中心に気を付けて、心を込めて書くことができている。

②「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	書き方のポイントを確認させ、自分のめあてをつかませる。
ア②	評価の観点を確認し、友達のよいところを見付ける支援をする。
イ①	漢字と仮名の大きさや行の中心などを考えて書けるように言葉掛けをする。